

●2009年12月 総覧 モバイル版 過去記事 検索

- 2009/12/30 憲法改正でジャー副大統領復権か？
- 2009/12/29 人権教・民主主義教の宣伝？
- 2009/12/28 憲法改正で母語使用権拡大か？
- 2009/12/27 ネワール州宣言
- 2009/12/26 コイララ党首，ノーベル平和賞候補に
- 2009/12/25 長崎のクリスマス
- 2009/12/23 クリスマスと神仏の闘争
- 2009/12/20 ラブ・グリーン・ネパール：AOTS「社会貢献大賞」受賞
- 2009/12/18 印中の対ネ軍事援助合戦
- 2009/12/16 党内民主化は進むか？
- 2009/12/14 はてなRSS, はてな？
- 2009/12/13 ガンジーを虚仮にしたオバマ大統領
- 2009/12/10 瘦身広告：西洋式洗脳術
- 2009/12/08 ガンジー憲法論から学ぶ
- 2009/12/07 橘健一『＜他者／自己＞表象の民族誌』
- 2009/12/02 ネパールHPのグローバル化
- 2009/12/01 憲法講演会

2009/12/30

[憲法改正でジャー副大統領復権か？](#)

谷川昌幸(C)

暫定憲法第7次改正で母語宣誓が規定されれば、ジャー副大統領も復権させざるをえないだろう。

マデシ権利フォーラム(MJF)のU. ヤダブ議長とJP. グプタ副議長が、第7次憲法改正をするのなら、ジャー副大統領を復権させなければ理屈に合わないと主張し、これをどうやらプラチャンダ議長も呑んだようなのだ。そりゃそうだ。マオイストは民族自治権、言語権を主張しているのだから、ジャー副大統領の方が論理的だ。

カトワル統幕長解任・人民優位（文民支配）問題でも、マオイストは分が悪い。ヤダブ大統領の地位は国王なみに強い。大統領解任はよほどのことがない限り不可能だ。包摂民主主義とかいって少数決（2／3多数決）にしてしまったツケが、結局、マオイストに回ってきた。

いまマオイストは思い通りにならない制度に歯ぎしりしているのではないか。無視され続けてきた制度からのしっぺ返しといったところだ。

[大統領と首相, CK・ラル氏の正論の危うさ](#)

[大統領陛下の裁量権](#)

[カトワル解任危機と大統領権限](#)

[正副大統領の政治的行動批判](#)

[政治化する大統領](#)

[ヤダブ大統領の宗教行為](#)

13:44 | [固定リンク](#) | [この記事引用](#) | [憲法](#)

2009/12/29

[人権教・民主主義教の宣伝？](#)

谷川昌幸(C)

1. 人権教？

ネパールの大手メディアHPに、United for Human Rights (UHR)という機関（ないし団体）がこのような派手な宣伝を出している。まるで新興宗教の宣伝みたいだ。UHRとはいったい何者なのか？ 何の目的で、こんなことをしているのか？

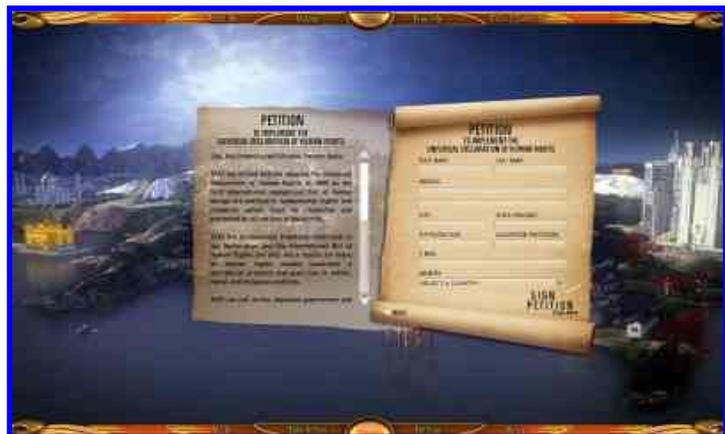


人権DVD無料配布

UHRの宣伝ビデオによれば――

神(God)→神法(Law of God)→自然法(Natural Law)→自然権(Natural Rights)→人権(Human Rights)

と発展してきたらしい。つまり、人権は絶対者たる神に由来し、したがって普遍的なものであり、世界であまねく実現されなければならない。こうした観点から、UHRは「世界人権宣言」の実現を各国政府に要求する請願書への署名を訴えている。これが日本版――



日本政府への請願書

ところが、不思議なことに、この宣伝はネパールのメディアに出されているのに、請願先一覧にはネパールはない。つまり、ネパールのようなちっぽけな国は相手にしないという政策らしい。

神は全能だから、サハラ砂漠の蟻一匹、いや砂粒一つですら、ちゃんと見ておられる。それなのに、宗教的情熱をもって普遍的な人権の実現を目指すこのUHRは、ネパールのような小国は相手にされないらしい。あるいは、ネパールではすでに人権は完全に実現され、人権実現請願などもはや必要ないと考えておられるのかもしれない。

2. 民主主義教？

こちらもかなり怪しい。人権DVDと同じ場所に、表示される。民主主義教か？

The image shows a screenshot of a website titled "DEMOCRACY HAS A NEW CHALLENGE" with the tagline "YOUR VOICE. YOUR VIDEO." The website is for a video challenge. On the left, there is a sidebar with "Related News" and "Other News" sections. The main content area features a video player with a woman's face and a YouTube logo. Below the video player is a red "ENTER NOW!" button. The website has a navigation menu with links for HOME, ABOUT THE CHALLENGE, VIDEO PAGE, OFFICIAL RULES, FAQ, and PRESS ROOM. The top right corner has language options: Nepali, English, Hindi, French, and Hindi.

こちらは、実は、アメリカ国務省「国際情報プログラム (IIP)」の提供。民主主義の宣伝ビデオを制作し、応募すると、あご・足つきアメリカ豪華旅行が当たる。

これは、「アメリカ国益のため」と謳っているから、正直ではあるが、どことなく胡散臭い感じがする。考えすぎかなあ？

14:52 | [固定リンク](#) | [この記事引用](#) | [人権](#)

2009/12/28

[憲法改正で母語使用権拡大か？](#)

谷川昌幸(C)

暫定憲法の第7次改正で、母語使用権が大幅に拡大されることになりそうな気配だ。

言語問題については、P.ジャー副大統領がネパール語宣誓を拒否し、最高裁命令も無視し、大問題になった。これは、少なくとも宣誓言語に関してはジャー副大統領に理があり、したがって最高裁も議会もジャー副大統領を罷免できず、ジャー氏は職務を停止しただけで、いまま副大統領職にとどまっている(と解釈できる)。

もし今度の第7次憲法改正で母語宣誓が認められることになれば、ジャー副大統領の完勝だ。

しかし、これは他方では、言語問題をさらに深刻化させることになる。昨日述べたように、ネワールが「ネワール州」宣言を行い、ネワール語の公用語化を要求した。行政も司法も学校教育もネワール語。本気なら大変なことになる。翻訳サービスをするにせよ、非ネワールは決定的に不利だ。

さらに母語使用権がややこしいのは、母語は本人が母語と思っているものが母語だという点

にある。ジャー副大統領が、流暢なネパール語で「ネパール語はしゃべれない、母語はヒンディー語だ」といえば、ヒンディー語こそが紛れもなく彼の母語なのだ。

言語は宗教以上に政治化しやすい。もっと慎重に取り扱われるべきだろう。

[ジャー副大統領の逆襲](#)

[悪魔の代理人, ジャー副大統領](#)

[ジャー副大統領, 鋭敏な政治感覚](#)

[日和見るジャー副大統領](#)

[言語戦争へ向かうか？](#)

[大臣のヒンディー語宣誓](#)

[ヒンディーを公用語に：副大統領](#)

[副大統領のハラキリ問題](#)

[言語問題マッチポンプの危険性](#)

[頑張るジャー副大統領](#)

[正副大統領の政治的行為批判](#)

[ネパールのスウィフト, ジャー副大統領](#)

[インド・コンプレックス知識人](#)

23:01 | [固定リンク](#) | [この記事引用](#) | [憲法](#)

2009/12/27

[ネワール州宣言](#)

谷川昌幸(C)

マオイストが12月16日、ネワール州宣言をしたのに続き、今度は統一闘争委員会（NC, UML, マオイスト, 諸党派）が12月26日、またまたネワール州宣言をした。州旗, 州歌も披露したらしい。いったいどうなっているのか？ まるで「吉利吉里国」独立宣言（井上ひさし）のようだ。

そもそも「ネワール」は、地理的概念なのか、それとも属人的概念なのか？ ネワール州宣言は、カトマンズ, ラリトプル, バクタプルをネワール州とし、州境を区画するそうだから、ネワールは地理的概念なのだろう。

しかし、これが不合理で非現実的なことは、明白だ。カトマンズを「ネワール州」と宣言して、そこにどんな意味があるのか？ 非ネワール住民はどうするのか？ バカバカしい。市民自治でよいではないか。



カトマンズ 2009.08

21:07 | [固定リンク](#) | [この記事引用](#) | [民族](#)
2009/12/26

[コイララ党首、ノーベル平和賞候補に](#)

谷川昌幸(C)

ネパールのネパール内閣は12月24日、 कांग्रेस党のGP. コイララ党首をノーベル平和賞候補として推薦することを決めた。



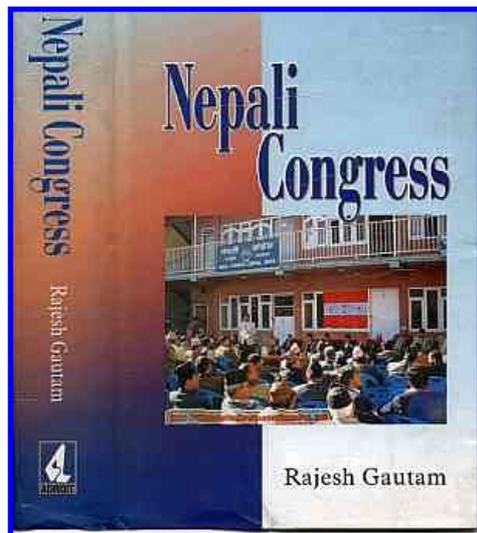
GP.コイララNC党首

2006年民主化運動成功後、コイララ絶賛の中で、ノーベル平和賞推薦の聲が高まっていた。これはマオイストのプラチャンダ内閣成立と共に水泡に帰したが、新憲法制定期限が数ヶ月後に迫り、せっぱ詰まってきた、またまたコイララ翁のお出ましを願うことになったようだ。

沖縄核密約の日本国佐藤首相、正戦を掲げ他国の人民を虐殺しているオバマ大統領らがノーベル平和賞をもらったのだから、コイララ翁がもらっても何ら不思議ではない。

コイララ翁にノーベル平和賞を授与し、この権威をもって民主化移行期の乗り切りを図るの

も悪くはないであろう。



12:11 | [固定リンク](#) | [この記事引用](#) | [政党](#)
2009/12/25

[長崎のクリスマス](#)

谷川昌幸(C)

イエスの生き方を深く尊敬する者の一人として、クリスマスの夕方、大浦天主堂を訪れ、そのあと香港上海銀行ホールのごospel・コンサートに行った。

大浦天主堂はカトリック、ごospel・コンサートはプロテスタント系と、教会は異なるが、訪れている人々を見ると、長崎ではキリスト教が生活となっていることがよく分かる。ここまでくるには、激しい迫害の日々があった。長崎のキリスト教徒の長い苦難の歴史がしのばれる。



大浦天主堂 1



大浦天主堂 2



大浦天主堂 3



香港上海銀行ホール 1



香港上海銀行 2



長崎大学「クリスマス電

飾(?)」 他の「国立」大学にもあるかな?
22:38 | [固定リンク](#) | [この記事引用](#) | [宗教](#)
2009/12/23

[クリスマスと神仏の闘争](#)

谷川昌幸(C)

世俗国家ネパールのクリスマスは、どのように祝われているのだろうか？ マオイスト・バンドの混乱や6時間停電の中でのクリスマス。ネットで見ると、2006年以前のようなバカ騒ぎはないようだし、国民祭日化後初のクリスマスであった2007年クリスマスほどの歓迎祝賀ムードも見られない。

それでも国家世俗化の追い風を受け、ネパールのキリスト教会は、急拡大中らしい。信者は50万人以上、教会は全国2799、カトマンズ盆地309もある(2007年度)。信者増加率でネパールは世界一という。「国家や社会が伝統的に拒絶してきたことをキリスト教会がダリットやジャナジャーティに提供した」ということも、その要因の一つであろう。

(Rabi Thapa, Nepali Times, #481)

12月19日には、パタン王宮広場でジーサス音楽学校生徒によるクリスマス・コンサートが開催された。聖夜、ジングルベル、サンタが町にやってくる等々が合唱され、寸劇「イエス・キリストの生誕」も上演された。大成功であったらしい。

このクリスマス・コンサートがパタン王宮広場のどの辺で開催されたのかは記事では分からないが、いずれにせよここはヒンドゥー教の神々や仏教の仏たちが無数鎮座する聖地だ。そこでクリスマス・コンサートを開催し、イエス・キリスト生誕劇を上演させるとは、さすがネパールのヒンドゥー教・仏教は心が広い。

キリスト教は立派な宗教であり、イエス・キリストの非暴力・平和の生き方は人類の至高の範例の一つである。しかし、状況が詳しく分からないのでネット記事からだけの判断になるが、ヒンドゥー教の神々・仏教の仏たちのど真ん中でクリスマス・コンサートをやるのは、いかがなものか？ 無数の神々・仏たちに、聖夜の歌声はどう聞こえたのだろうか？

現代は自由市場社会であり、神々も仏たちも自由競争は避けられないが、キリスト教の神とヒンドゥーの神々・仏教の仏たちは、平等な競争条件のもとにあるのだろうか？ これは難しい問題だ。どの神々、仏たちの側も慎重に行動しないと、深刻な神々の闘争に陥ってしまう。

このクリスマス、私はゴスペル・コンサートに行くことにしている。



クリスマス集会参加の世俗国家首相(共産主

義者)

* "Welcoming Christmas," The Himalayan, Dec20

* Rabi Thapa, "Xmas? Cheers!," Nepali Times, #481, Dec18

15:44 | [固定リンク](#) | [この記事引用](#) | [宗教](#)

2009/12/20

[ラブ・グリーン・ネパール](#) : [AOTS 「社会貢献大賞」 受賞](#)

谷川昌幸(C)

[ラブ・グリーン・ネパール](#)代表のアミーラ・ダリさんが10月, [海外技術者研修協会 \(AOTS\) 「社会貢献大賞」](#)を受賞された。このNGOのこともダリさんのことも全く存じ上げないが、まずはお目出たい。

ここで注目すべきは、この受賞を朝日新聞be on Saturdayが2面にわたって大々的に報道したことである。内戦中は殺伐な記事ばかりであったが、少し落ち着いてきたので、このような記事となったのであろう。平和が再建され、定着していくことを期待したい。



16:00 | [固定リンク](#) | [この記事引用](#) | [団体](#)
2009/12/18

[印中の対ネ軍事援助合戦](#)

谷川昌幸(C)

インドと中国が、ネパールに対する軍事援助合戦を再開した。仏陀生誕地に武器を送りつけ、代理戦争をさせるつもりだろうか？

(1)インドの軍事援助

インド国防省高官は、訪印中のグルン統幕長の要請にこたえ、インド軍学校へのネパール士官受入増、インド軍グルカ兵増員、戦車(中古?)50両の供与の意向を表明した。

インド軍グルカ兵は約4万人(2004年)。優秀で使いやすいため、現在の年1600人募集枠を拡大し、1大隊(約900人)を増設するらしい。

インドの対ネ軍事援助は、グルン統幕長(インド軍学校卒)からの要請であるが、インド側

も、ネパール軍士官を訓練し、武器を援助し、グルカ兵雇用を拡大することにより、対ネ影響力の維持拡大をねらっていることはいうまでもない。

(2)中国の軍事援助

中国も、グルン統幕長訪印をにらみながら、対ネ軍事援助の拡大を表明した。

訪ネ中国軍事使節団のジャリン（Jialing）将軍は、ネパール国軍TJB・シン副統幕長と会談し、2億2千万ルピー相当の武器、兵站、軍事訓練の供与を表明した。その中には、中ネ国境付近の「中ネ友好ビル」建設も含まれている。

中国軍事使節団は、バンダリ国防大臣とも会談した。バンダリ大臣は、中国側に対し、軍事援助拡大、両国の軍事関係の緊密化、チャウニー軍病院への援助を要請した。一方、中国側は、バンダリ国防大臣、ギミレ国防省事務局長の中国訪問を要請し、またラサのネパール領事館再建援助も表明した。

——以上のように見てくると、中国とインドが、ネパールをめぐる軍事援助合戦を再開したことが分かる。あるいは、逆に言えば、ネパールが、中印に二股をかけ軍事援助を競わせる、伝統的外交手法を再開したともいえる。

しかし、これがネパール人民にとっていかに危険な冒険であるかはいうまでもない。途上国ネパールが、十数万の軍隊をもち、重武装し、あげくの果ては「北部諸州」は中国側、「南部諸州」はインド側について代理戦争に突入。そんなことになりかねない。

日本は、十数万もの軍隊をもち軍拡に狂奔するネパールに対し、このまま援助を継続してもよいのだろうか？

ネパールは、日本国益にとって、国連での1票しか利用価値がない。その1票ですら、森首相訪ネのお願い外交をしてすら、恵んでもらえなかった。日本は、いくら援助をしようが、ネパール政府からは徹底的に軽視され、バカにされている。対ネ開発援助こそ、必殺仕分人の仕分を受けるべきだろう。

11:22 | [固定リンク](#) | [この記事引用](#) | [外交](#)

2009/12/16

[党内民主化は進むか？](#)

谷川昌幸(C)

デブ・ラジ・ダハール氏の論文——

Dev Raj Dahal, The Strengths and Weakness of Party Functioning in Nepal: A Proposal for the Engagement of Party Members (FES Nepal Office, Nov.18, 2009)

によれば、ネパールの主要政党は、党内民主化の要求の高まりに押され、党改革を進めつつあるという。

(1)マオイスト

マオイストは、2010年1月20日開催予定の全国大会のため、「幹部行動規範」を準備してい

る。それによれば、中央委員会 (CC)委員は――

- ・役得を求めない
- ・革命のプロとして行動せよ
- ・NGOに関与しない
- ・汚職等に手を出さない
- ・職場から離れたところに住居を借りない
- ・全財産を党に提供する
- ・子供を留学させない, 私学にも入れない
- ・肉体労働を月1日おこなう, ただし中央役職者は2ヶ月に1日とする

なかなか立派な「行動規範」であり, 革命的実行を期待したい。

マオイストは, 党体制を戦時型から平時型へ, 集権制から集団指導制へ移行させ, 排他的イデオロギー政党から大衆の支持を求める全方向型政党への構造改革を進めているという。

(2) कांग्रेस党

कांग्रेस党は, 党首が党役員の半分を指名し, かつ拒否権を握っていた。この党首権限は, 2009年11月の党大会で大幅に制限され, 現在では次のようになっている。

- ・中央委員会委員 (85人) の75%は選挙で選出
- ・党首は, 女性, ダリット, 先住民, マデシ, ムスリムの中から, 21人のCC委員を指名

(3) UML

UMLでは党是の「人民複数政党制民主主義」の見直しをめぐって議論されている。しかし, 党内議論が盛んになった反面, 派閥政治の傾向も強くなってきている。

(4) 社会的公正のために

ダハール氏によると, ネパールは3種類 (3世代)の人権をすべて受容し, 「社会民主主義」となった。

各政党の立場は異なるが, 少なくとも政治の多元性, 人権, 自由な言論, 独立の司法, 自由選挙は受け入れられている。

残る問題は, 社会的公正 (social justice) をいかにして実現していくかであり, これには市民教育 (civic education), 特に政党民主化が必要であるという。

以上の議論は, 少々楽観的とも思えるし, 短い論文なので分かりにくいところもあるが, 混沌たるネパール政治がダハール氏のこのような方向に向かっていくことを願っている。

12:11 | [固定リンク](#) | [この記事引用](#) | [民主主義](#)

2009/12/14

[はてなRSS, はてな?](#)

谷川昌幸(C)

はてなRSSの自動更新が完全に機能停止している。無料で便利なので愛用してきたが, どうしようもなく, JN-NETとYahooのリーダーを使用している。どうしたのだろうか?

他の愛用者も, 困っているようだ。早くメンテナンス情報を出さないと, 利用者がみな逃げ

てしまう。このへんが、ネット商売の難しさであろう。

はてな ネパール×ネパール (公開)

<http://r.hatena.ne.jp/peaceandrights/>

JN-NET RSSリーダー (公開)

<http://www.jn-net.com/blogView/rss.php>

18:38 | [固定リンク](#) | [この記事引用](#) | [コンピューターとインターネット](#)

2009/12/13

[ガンジーを虚仮にしたオバマ大統領](#)

谷川昌幸(C)

オバマ大統領のノーベル平和賞受賞演説(12月10日)を読んで、こんなはずではなかった、と落胆している人も少なくあるまい。「オバマ感謝祭」を開催し、「オバマ法被」を着て「オバマみこし」を担ぎ練り歩いた長崎においても、失望の声が聞かれ始めた。

オバマ大統領は、ガンジーやキング牧師を引用し称賛しながらも、「正しい戦争」、つまり防衛戦争と人道介入戦争を認め、ガンジーの非暴力・不服従による抵抗の教えを否定してしまった。

オバマ大統領は、演説において戦争を必要悪としてはっきりと認めており、したがって彼の核廃絶宣言も従来の核軍縮の枠を越えるものではない。

彼は正戦を認めるのだから、当然、核抑止力も認めている。核が大国によりきちんと管理されている限り、アメリカの核は世界最大の抑止力を持つから、アメリカにこれを廃絶する理由はない。

しかし、核拡散が続き、核がテロリストの手に渡ると、アメリカの核兵器はそれに対し何の抑止力もない。むしろ、核攻撃へのテロリストの意欲を掻き立てるだけだ。

オバマ大統領は、この状況に危機感を抱き、核拡散を防止するため核廃絶を唱えているにすぎない。だから、核の大国管理が回復すれば、核廃絶を唱える理由はなくなり、オバマ大統領、あるいは後継米大統領は、核廃絶をいわなくなるであろう。

オバマ大統領は、あえていうなら、ガンジーを虚仮にした。ガンジーは一切の正戦を否定したのであり、正戦を認めるオバマ大統領はガンジーを引き合いに出すべきではなかったのだ。

しかし、それにもかかわらず、私はオバマ大統領を高く評価する。彼は、やはりブッシュ前大統領とは格が違う。オバマ大統領は、ガンジーやキング牧師の非暴力・不服従による抵抗の立場を十分に理解した上で、そしておそらく彼らを虚仮にすることになることがわかっていても、それでも彼らを引き合いに出さざるをえなかったのだ。オバマ大統領のノーベル賞受賞演説には、彼の誠実さと、それゆえにこそ生じる内面の苦悩が、滲み出ている。

オバマ大統領は傑出した政治家である。長崎・広島は、手放しのオバナ礼賛ではなく、彼の正戦論を徹底的に批判することによって、彼が核抑止論も力の均衡論も放棄し非暴力・非戦平和の立場に向かうよう、彼を激励し支援すべきであろう。

[広島・長崎「平和宣言」批判](#)

[オバマ大統領の新軍国主義と朝日の海自派遣扇動](#)

[オバマ核廃絶発言と長崎の平和運動](#)

[オバマ大統領と国益と南アジア](#)

[オバマ大統領の新軍国主義と朝日の海自派遣扇動](#)

[無節操なオバマあやかリイベント](#)

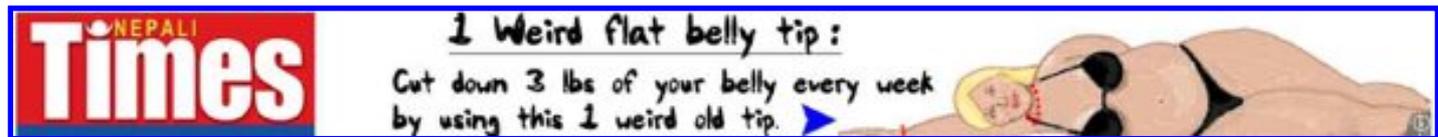
21:01 | [固定リンク](#) | [この記事引用](#) | [平和](#)

2009/12/10

[瘦身広告：西洋式洗脳術](#)

谷川昌幸(C)

ネパリタイムズ(2009.12.09)に派手な瘦身広告が掲載されている。



広告は資本主義の先兵であり、人民洗脳・マインドコントロールの最強の手段であるが、先進資本主義国ではすでに一般化しており、その本質がかえって見えにくくなっている。

ところがまだ伝統的なところを多く残すネパールを対象としたこの種の広告を見せられると、なるほど西洋先進国は「後進国」をこのように侵略し、人びとを洗脳して伝統文化を放棄させ、自ら進んで西洋文化に跪拝するようにし向けるのだな、ということがよく分かる。



現在＝美しくない＝「後進国」 (先進国の後進部分)

↓ Tip of a flat belly :



Cut down 3 lbs of
your belly every
week by simply
using this

↓ weird old tip. ➡

数週間後＝どちらでもない＝中進国

↓ Tip of a flat belly :



Cut down 3 lbs of
your belly every
week by simply
using this

↓ weird old tip. ➡

さらにその数週間後＝美しい＝先進国

周知のように、他の途上国の多くと同様、ネパールでも「豊満」が称賛されてきた。私自身のこれまでの経験からも、「瘦身」女性よりも「豊満」女性の方が男性にモテていた。「豊満」は、病的な肥満でなければ、女性の本性＝自然(nature)に叶っており、したがって女性の魅力となっていた。自然においては、女性の「豊満」は美である。

ところが、資本主義は人間を自然の状態に置いておいては、利潤が出ない。そこで、資本主義は、女性の自然＝本質を否定し、自然な「豊満」を醜、人為的・人工的な「瘦身」を美と宣伝し、これにより人びとを洗脳していくのである。

この価値観の逆転は、当初は、不自然と感じられるかもしれないが、洗脳が進み、マインドコントロールが利いてくると、人びとは「瘦身＝美」という西洋的価値基準を内面化し、自ら進んで人為的・人工的に痩せようと努力し始める。

このネパリタイムズの広告は、魔法の“calorie/carb rotation plan”で痩せるのだそうだが、瘦身方法は何であれ、いったん「瘦身＝美」の価値観が刷り込まれてしまうと、女性たちは「痩せなければ」という焦燥感に駆られ、不自然な食事制限やヤセ薬、過酷な運動などに走ることになる。

こうなればしめたもの、食品会社や薬品会社は女性たちにダイエット食品やヤセ薬を売りつ

け、そのため病気になれば、今度は治療薬を売りつけ、儲けることができる。資本主義とはそういうものだ。

真・善・美は文化の核心だ。巧妙な宣伝広告で「美」の砦が突破されてしまったら、次は「善」であり「真」であろう。こうして、ネパールは伝統文化を放棄し、西洋資本主義文化に従属することになってしまうのである。



21:03 | [固定リンク](#) | [この記事引用](#) | [文化](#)
2009/12/08

[ガンジー憲法論から学ぶ](#)

谷川昌幸(C)

C. D. ラミス『ガンジーの危険な平和憲法案』（集英社新書，2009, pp.3-190）を読んだ。たいへん魅力的なタイトルであり、教えられることも少なくないが、議論の展開は、新書ということもあり、やや表面的という感じがした。

私が見るところ、ガンジーは偉大な現実主義者であり、悪政への非暴力不服従こそが平和を実現すると説いた。そして、その考えの正しさを、彼はインドの独立によって世界の権力観念論者たちに実証して見せた。

しかし、それにもかかわらず、ガンジー主義はインドでも他の国々でも受け入れられず、世界は凶暴な資本主義と軍事観念論に支配され、今日に至っている。

そこで不思議なのが、新憲法制定の途上にあるネパール。なぜネパールの人びとはガンジー憲法論から学ぼうとしないのだろうか？ インド人だから？

いまのネパールにおいて学ぶべきは西洋近代憲法論ではなく、ガンジー憲法論であり日本国憲法第9条である。こんなちっぽけな途上国ネパールが、西洋のマネをして十数万もの軍隊(PLAを含む)をもってどうするのか？ 軍隊で誰の何を守るつもりなのか？ 軍隊はムダ飯食いで、クーデターの温床になるだけだ。

ネパールの人びとにとって、ガンジーを学ぶのは沽券にかかわるかもしれないが、そんなことをいったらマルクスも毛沢東も外国人であり、同じことだ。だったら、彼らとは比較にな

らないほど偉いガンジーを学ぼう。ガンジーこそが、ネパールに真の平和をもたらしてくれるであろう。

20:03 | [固定リンク](#) | [この記事引用](#) | [本](#)

2009/12/07

[橘健一『〈他者／自己〉表象の民族誌』](#)

谷川昌幸(C)

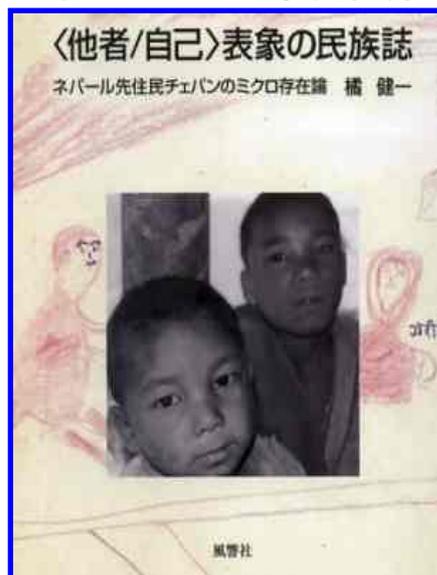
橘健一『〈他者／自己〉表象の民族誌：ネパール先住民チェパンのミクロ存在論』（風響社、2009、pp1-330）を読んだ。著者によると、本書は「自己表象論の可能性を受け取りつつ、対象を拡張した『〈他者／自己〉表象論』」であり、「現地の人々と人類学者相互の表象を示し、ミクロとマクロを錯綜する存在の在り方を解釈する」ことを目的としている（p44）。

難しい表現であり、これが文化人類学・民族誌においてどのような意義をもつものかは、全くの門外漢の私にはよく分からない。しかし、たとえかりにその専門的な方法論の部分を棚上げしても、次のような著者の異文化経験は、ときにはスリリング、ときにはドラマチックであり、読み進んで興味が尽きることはない。

「チェパンの人びとと関係を持ち始めて以来、私にとって最も大きな異文化経験は、……チンラン（人喰い鬼）として恐れられたことである。また、同時にチョール（泥棒）とも恐れられ、また逆に教師でもないのにサール（先生）として有り難がられ、村人よりも金銭的には豊かな状況にあったにも関わらずドゥキ（受難者）とって受け入れられたことも、異文化経験だった。」（p44）

（本書の構成）

はじめに／第1章 序論／第2章 チンランの象徴世界／第3章 チョールの象徴世界／第4章 サールの象徴世界／第5章 ドゥキの象徴世界／結論／あとがき



本書のような人類学、民族誌が方法論的に難しい領域であろうことは、門外漢の私にも何となく想像できる。

趣味でネパールを勉強し始めた頃、カースト制に関する記述をいくつか読んだ。当然とはい

え、研究者たちはネパール社会に深く入り込み、人間関係を子細に観察し、カースト階層秩序を「科学的」「実証的」「客観的」に記述していく。上下関係が明確な場合はそのまま記述すればよい。そうでない場合は、人びとの行動をさらにいっそう詳しく立ち入って観察し、相対的上下関係を識別し、分類し、科学的・実証的に記述する。私にとって、このようなネパール社会研究は大いに役立ったが、その一方、そのような部外者による記述がカースト秩序の再編・強化をもたらすのではないかと危惧してもいた。

あるいは、文化人類学の重要な領域の一つが「声なき人びと」の文化の観察記述であるとするれば、どのように観察・記述するにせよ、それにより文化は多かれ少なかれ変形される。極端な場合、観察者の「声」をそっくりそのまま自らの「声」とすることもある。異文化（他者）は理解（記述）したとたん、異文化（他者）ではなくなる。たとえばカースト／民族／ジャーティのアイデンティティも、即自的なものから、自覚的なものへと変形・変質される。他者にとっては、認識されること自体が、認識者の世界に何らかの形で引き込まれ、組み込まれ、位置づけられてしまうことを意味する。文化人類学者は、対象を認識することによって、次々と文化を破壊していつているのではないか？

これは門外漢の私にはよく分からない問題だが、しかし、政治学・憲法学の観点から「差別をなくし人権を実現する」ということを目標とするならば、社会諸集団のアイデンティティの覚醒は、慎重を要するが、避けては通れない道であろう。

被抑圧民族／カースト／ジャーティが、自己のアイデンティティを自覚し、ときには部外者からアイデンティティを付与され、それにより結束し権利実現のために立ち上がる。女性やダリットが、「普遍的人権」の前に、まず「女性の権利」「ダリットの権利」の実現を要求する。これは当然のことだし、効果も大きい。文化を棚上げし、西洋近代型普遍的「人権」を唱えてみても、いつまでたっても少数派や社会的・文化的弱者の権利は実現されない。文化的に差別されているのだから、自らの文化的アイデンティティを確立し、それにより権利を闘いとる。これは賢明な戦略といえる。

アイデンティティ政治は危険だが、その段階を通らないと、ネパールの人権と民主主義は大きくは前進しないかもしれない。文化人類学者が「声なき文化」や「声なき民族／ジャーティ」のアイデンティティを覚醒させ、「声」を付与してくれたおかげで、彼らは自己の権利を自覚し、権利要求に立ち上がることができたのである。

16:29 | [固定リンク](#) | [この記事引用](#) | [本](#)

2009/12/02

[ネパールHPのグローバル化](#)

谷川昌幸(C)

ネパールのインターネットHPは、内向き指向の日本とは対照的に、世界指向だ。この数ヶ月、ネパールの大手HPのリニューアルをみると、その傾向がはっきり見て取れる。（横並びはよろしくないが。）

昨日、ネパールニュースコム（マーカントイル）をみたら、なんと日本語の広告が表示された。いまでは、このHPを日本から何人読みに来ているかが瞬時にわかる。それほど多いとは思えないが、それでも日本語広告とリンクさせるのは造作もないことだから、十分採算があうのだろう。

The screenshot shows the nepalnews.com website interface. At the top left, there is a 'SEND SMS' button with an image of a woman. Below it are links for 'nepalnews.com', 'nepalnewsmobile.com', and 'Marriage proposals'. A sidebar on the left contains 'Buy/Sell Property In Nepal' and 'Money Transfer' links. The main content area features a large advertisement for 'インド料理シバ (Indian Restaurant SIBA)' with a red 'CLICK HERE' button. The ad text includes 'ランチ700円-ディナ1000円-パティ2400円-食べ放題の+み放題'. Below the ad is a 'Space for advertisement' section with the URL 'nepalnews.com' and dimensions '420x40'. At the bottom, there is a news headline: 'UCPN (M) fails to fix party-proposed state boundaries' dated 'Monday, 30 November 2009 15:35'.

もはや日本企業は割高な日本の広告媒体に依存する必要はない。日本人向けの広告も、これからはネパールなどに外注され、日本にはほとんど残らなくなる。

日本では、工業製品を作っても、ソフトをつくっても採算がとれない。どうみても日本はこれから先、没落して行くのみだ。所得水準がネパール並みとなったところで、日本にも仕事が回ってくるだろう。

そこまで、みっともなく軍国化に走ったりせず、いかに優雅に没落していくか？ 日本人の矜持が試されることになる。

11:44 | [固定リンク](#) | [この記事引用](#) | [コンピューターとインターネット](#)

2009/12/01

[憲法講演会](#)

谷川昌幸(C)

長崎で憲法に関する講演を行います。

日本の憲法は優れた憲法だが、9条は棚上げされ、日本は世界有数の軍事力を持っている。その上、国際貢献、人間の安全保障を錦の御旗に、自衛隊海外派遣の拡大に向かっている。また、人権についても、憲法は手厚く保障しているのに、実際には死刑は継続され、健康で文化的な生活への権利も危うくなりつつある。

一方、日本国憲法は60年前に制定されたものであり、「国民国家」を大前提にしているという点で、いくつかの時代的制約があることは否定できない。その意味では、いま作成されつつあるネパール憲法の方がはるかに先進的ともいえる。日本はネパールから学ぶべきところ

ろが少くない。

13日の講演では、このような観点から、憲法についてお話ししたいと考えています。

ずっと平和に暮らしたい・・・ 地域のみなさまに支えられ
お歳暮で4周年を迎えます

講演と音楽のつどい

入場無料 お気軽にご参加ください。

とき 12月13日(日)14:00～16:00

ところ ダイヤランド ふれあいセンター

14:00～ J・山里ゴスペルクラブ



14:40～講演「新しい政治の流れと
憲法」

長崎大学教授 谷川昌幸氏

プロフィール
長崎大学 教育学部
社会科教育・政治学教授
著書「途程・平和の論理」(共著)
「近現代日本の平和思想」(共著)
など著書多数



主催 小ヶ倉・ダイヤランド地区九条の会
事務局連絡先 長崎市ダイヤランド3-20-1上村祥子
☎078-1800